
斬

無月藍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

斬

【Nコード】

N4913B

【作者名】

無月藍

【あらすじ】

夜の闇に舞う、朱い華。その名は、シザン。命を奪っていくシザンに、光は在るのだろうか。（グロテスクな表現が出てくるところがあります。あった場合サブタイトルに「*」の記号を入れますので参考に）

零―序章―（前書き）

第一話（零―序章―）では、グロテスクな表現は在りませんが、第二話から出てくる可能性があります。ある場合は、前書きに書きますので参考にしてください。

零―序章―

「さ、早く行け。警察にばれちまうぜ！」

「って！もう二時じゃねえか！何でもつと早く言わねえんだよ！」

黒いニット帽を被った男は、暗闇の中でスーツケースをもう一人のガラの悪そうな男に渡す。周りは、昼だと賑わっていたはずの遊具やブランコが置いてある。けれど、明るい時と打って変わって夜九時ごろからは、この場所は麻薬取引の格好の場所となるのだ。

さておき、今は午前二時。丑三つ時である。この二人は親友で、久しぶりに会ったらしく、一時に約束をしてから1時間もここで話していたのだ。全く馬鹿な奴等である。

「おい、俺が捕まったらお前も追うように言うからな！」

「馬鹿！そんな事言ってる暇があったら逃げる！奴が出るぞ！」

スーツケースを持った男が、渡した男に冗談半分、本気半分の言葉を投稿かける。渡された男が最後に言った…『奴』とは…もう直ぐ現れるのであえて説明しなくてもいいだろう。

―ひゅ

「な、なあ。今物音しなかったか…？」

「してねえって！早く逃げろ！俺はもう行くからな！」

スーツケースを渡した男は、一目散に逃げていく。ニット帽の男も後を追おうとするが、石に躓いた。

「いつてえ…。」

―ガサ

確かに聞こえた、『ガサ』と言う物音にニット帽の男は身震いする。ガサと言う物音の後には何も音がしなかったので、それが余計に怖かったようだ。

「お、オイ…テツタ…何処だよ…！俺を置いて行くなよ！」

全く声も、音も聞こえてこない。ニット帽の男は恐る恐る立ち上がって砂を払う。

「ひゃ…ぎゃああああああつ！」

ニット帽の男の悲鳴と共に、小さくガサガサと言う物音がする。それに気付いた男は思わず全速力で走り出す。その後を追うようにガサガサと音がする。

―次の瞬間。

「お命、頂戴。」

小さな言葉と共に、男が独り倒れていた。

「我が名は、朱斬^{シザン}。お命頂戴致した。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4913b/>

斬

2010年10月9日16時22分発行